

## 看護職者の自我同一性と個人の内的属性との関係

横田恵子<sup>1)</sup>, 劉瑞霜<sup>2)</sup>, 林稚佳子<sup>3)</sup>, 高間静子<sup>1)</sup>

1) 富山医科薬科大学医学部看護学科

2) 中国衛生部北京医院

3) 国立看護大学校

### 要 旨

看護職者の自我同一性と個人の内的属性との関係について調べた。内的属性を自己没入、共感、抑うつ、対人不安とした。調査対象は2つの総合病院に就労する看護職者332名である。使用した測定用具は多次元自我同一性尺度、自己没入尺度、共感的配慮尺度、自己評価式抑うつ尺度、対人不安意識尺度である。その結果、全体でみると自我同一性と抑うつとは負の相関が認められた。また自我同一性と対人不安との間にも負の相関を示した。人口学的背景別に見ると、自我同一性と抑うつとの間に関係がみられたのは女性群、年齢24歳以下群・45歳以上群、経験年数20年以上群、職階別のすべての群、専修学校群、兄弟1人群・3人以上群、友人数1人群・2～3人群、4～5人群であった。さらに、自我同一性と対人不安との間に相関が見られた群は、女性群、年齢別のすべての群、経験年数7～9年以外のすべての群、副師長・主任群、看護師群、兄弟1人以上のすべての群、友人数の1人群以外のすべての群であった。しかし、自己没入と共感は自我同一性とは相関を示さなかった。また、自我同一性に最も影響する個人の内的属性は対人不安であり、次に抑うつであった。以上のことから看護職者の自我同一性は内的属性と関係のあることが示された。

### キーワード

自我同一性、自己没入、共感、抑うつ、対人不安

### 序

エリクソンは同一性という概念を自己同一性と自我同一性に分けている<sup>1)</sup>。「自己同一性は何を同一性の手がかりとするかによって、家族同一性、職業的同一性、社会的同一性等の言葉が用いられている<sup>2)</sup>。自我同一性は自己同一性を統合したものと捉えられ<sup>1)</sup>、同一性の獲得は生涯継続していく<sup>3)</sup>。同一性の達成とは「自分が進むべき『道』を見いだし、その生き方に積極的に参加できる状態<sup>4)</sup>である。看護職は患者の命と直面する職場環境におかれているため、緊張感を伴い責任も重

大である。そのような環境の中で看護職者は専門性を発揮し、看護を実践していくことが求められている。そのためには看護職者としての職業的同一性を確立し、積極的に看護を行う姿勢を養わなければならない。クレグは看護職アイデンティティを看護師との自己一体意識と定義し、「看護師が職業的アイデンティティを確立することは、看護の質を向上させる1つの方法である」と述べている<sup>5)</sup>。看護師の職業的同一性の重要性について杉村は「確立した職業アイデンティティが基盤となって仕事としてのよいケアを生み、それが相手からの感謝や他者からの評価を生み、自己肯定・

自己受容を高め、結果として職業アイデンティティを包摂する個としてのアイデンティティの成熟がうながされる<sup>9)</sup>と述べている。また高田ら<sup>7)</sup>は、学習への動機づけは自我同一性の確立と関係があることを報告している。本研究では看護職者の自我同一性と個人の内的属性である自己没入、共感、抑うつ、対人不安との関係を明らかにすることを目的とした。

次に自我同一性と自己没入との関係について文献検討を行った。「自己没入とは自分について考えやすく、自分について考えたらなかなかそれが止まらないという特性である<sup>8)</sup>。山岸は「自我同一性は自分らしいと感じられる自分が他者―社会からも認められ、自分のあり方と他者からの期待や要請が一致したときに経験される<sup>9)</sup>と述べている。このように自我同一性は社会・他者との関わりの中で形成されていくため、自分のことに注目し、周囲との関わりをあまり取らず自己没入に陥っている人は自我同一性が発達できないものと推定できる。

さらに共感について検討してみると、ディヴィスは「共感能力をもっている人は、思いやりのある、他人中心的なスタイルを反映した行動を示すことになり、よいコミュニケーションができる<sup>10)</sup>と述べている。看護職は対人関係が重要視される職業であることから共感性をもつことは重要である。共感と自我同一性の関係について、長谷川は共感能力に関与する条件の1つとして同一性の確立をあげ、「健康で安定した自己確立を目指す人は他者の苦悩に共感することで成長する<sup>11)</sup>と述べている。また、ホフマンは個人的なアイデンティティが獲得されると抽象的な種類の共感的反応ができるようになると論じている<sup>11)</sup>。「ナースが患者の気持ちに共感するのは、ナース自身の独自の主体的行動であって、ナースは共感している自分自身に気づいているし、共感しているということを患者に向けて表明もできる。このような意味の共感とは、同一性 (identity) に基づく行動である。言い換えれば、自我の確立 (あるいは自我の成長) によって初めて、援助的な意味における共感が可能になる<sup>11)</sup>とも述べられている。また、自己への覚知と共感について、「自分

への気づきは、相手に対する誠実さにもつながっていく。自分を本当に認めるということは、他者に対しても正直に対応できることの証しだからである。このような対人関係の体験を重ねる結果として、自分自身の価値基準も柔軟になっていくであろうし、共感的な関係も発展していくであろう。」<sup>11)</sup>との報告からも、共感と自我同一性とは関係があるものと推察できる。

抑うつについての研究では Abramson らの「帰属理論」がある。この理論では人が抑うつになるのはものごとの原因を何のせいにするかによって決まる。例えば自分の能力不足により失敗したというような内的・安定的・全般的に帰属した場合は、無力感是最も強くなり、逆に環境などの外的・不安定的・特殊的に帰属するほど無力感は弱くなる<sup>8)</sup>。このことより、自分のせいだと内的に帰属する人は自己を受け入れることができず、自我同一性の発達に影響してくるものと考えられる。また、Pyszczynski と Greenberg の「抑うつの自己注目スタイル理論」によると、ネガティブな状況で自分を意識することが抑うつにつながることを述べている。つまり、「抑うつの人がある抑うつの自己注目スタイルとは、ポジティブな出来事あとの自己注目を避け、ネガティブな出来事後に自己注目するということである。」<sup>8)</sup>このような状況では自己のネガティブな面にのみ意識するため、自我同一性の形成に望ましくない影響を与えているのかもしれない。

対人不安とは「現実の、あるいは想像上の対人場面において、他者からの評価に直面したり、もしくはそれを予測したりすることから生じる不安状態<sup>12)</sup>と定義されている。対人不安と自我同一性との関係について Banion らは、「対人不安が高いと自分を見なしていると対人評価や不安に関する手がかりに特別の注意を払うことになり、対人関係で自分がどう受けとめられ評価されているかが気になり対人不安を促進する<sup>13)</sup>と述べている。このことから、自己を対人不安が高いと見なすことで対人不安も大きくなることが予測される。また、自我同一性の発達には他者、社会とのかわりが必要であることから、人との関係の中で自我同一性を確立できている人は対人不安も少な

いことが考えられる。

以上のことから、次のような仮説を推定した。

- 1) 自己没入と自我同一性は関係がある。
- 2) 共感と自我同一性は関係がある。
- 3) 抑うつと自我同一性は関係がある。
- 4) 対人不安と自我同一性は関係がある。

本研究ではこれらの仮説を検証することを目的とした。

## 研究方法

### 1. 調査対象

2つの公立総合病院の看護職者350名とした。

### 2. 調査内容

自我同一性を従属変数、自己没入・共感・抑うつ・対人不安を独立変数とし、これらの関係を調べた。また、性、年齢、経験年数、職階、看護教育背景、兄弟数、友人数等の人口学的背景の違いによる傾向も調べた。

### 3. 測定用具

自我同一性の測定には谷の多次元自我同一性尺度<sup>14)</sup>を用いた。また、自己没入の測定には坂本の自己没入尺度<sup>8)</sup>を、共感はディヴィスの対人的反応性指標の下位尺度である共感的配慮尺度<sup>15)</sup>を用いた。さらに、抑うつの測定には、Zungの開発した尺度を福田・小林等が日本版にした自己評価式抑うつ性尺度<sup>16)</sup>を、対人不安の測定には林・小川の対人不安意識尺度<sup>17)</sup>を用いた。

### 4. データの統計処理

偏相関係数、標準偏回帰係数、信頼性係数の算出には統計ソフト SPSS 10.0 J を使用した。

### 5. 調査方法

調査を依頼した病院の看護部長の承諾を受けて、看護職者への調査票の配布を依頼した。倫理的配慮として、調査票は無記名とし、プライバシーの漏れることのない旨の説明文を添付した。調査の主旨に同意が得られた人には留置法で調査票の回収を行なった。調査期間は2001年7月20日～7月30日であった。

## 結 果

### 1. 調査票の回収率と対象者の属性

調査対象者350名のうち、回収数は339名（回収率96.9%）であり、そのうちの有効回答数は332名（有効回答率97.9%）であった。対象者の人口学的背景は表1に示した。

### 2. 本研究で使用した尺度の信頼性

本研究において使用した尺度の Cronbach's  $\alpha$  係数を算出し信頼性を確認した。多次元自我同一性尺度は0.918、自己没入尺度0.899、共感的配慮尺度0.707、抑うつ性尺度0.787、対人不安意識尺度0.975であった。

### 3. 対象者全体でみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表2には自我同一性と個人の内的属性との関係、ならびに個人の属性である自己没入、共感、抑うつ、対人不安等のどの属性が最も自我同一性に影響しているかについて示した。看護職者の自我同

表1 対象の背景

				n=332	
属 性	群	人数	%		
性 別	男	11	3.3		
	女	321	96.7		
年 齢	24 歳 以下	30	9.1		
	25 ～ 34 歳	89	26.8		
	35 ～ 44 歳	98	29.5		
	45 歳 以上	115	34.6		
経 験 年 数	3 年 以下	37	11.1		
	4 ～ 6 年	34	10.3		
	7 ～ 9 年	21	6.3		
	10 ～ 19 年	90	27.1		
	20 年 以上	150	45.2		
職 階	看 護 師 長	13	3.9		
	副 師 長 ・ 主 任	118	35.5		
	看 護 師	201	60.6		
学 歴	大 学	7	2.1		
	短 大	55	16.6		
	専 修 学 校	270	81.3		
兄 弟 数	自 分 の み	25	7.5		
	1 人	95	28.6		
	2 人	99	29.8		
	3 人 以上	113	34.1		
友 人 数	無	25	7.5		
	1 人	31	9.4		
	2 ～ 3 人	149	44.9		
	4 ～ 5 人	94	28.3		
	6 人 以上	33	9.9		

表2 自我同一性と内的属性との関係

属性	n=332	
	偏相関係数	標準偏回帰係数
自己没入	-0.011	-0.010
共感	0.050	0.038
抑うつ	-0.263***	-0.260***
対人不安	-0.431***	-0.468***

\*\*\*p<0.001

表3 性別にみた個人の内的属性と自我同一性との関係

属性	n=332			
	男性群		女性群	
	PC	SP	PC	SP
自己没入	0.115	0.064	-0.016	-0.008
共感	0.359	0.261	0.032	0.025
抑うつ	-0.476	-0.344	-0.281***	-0.255***
対人不安	-0.381	-0.444	-0.410***	-0.466***

\*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP：標準偏回帰係数 (Standard Partical regression coefficient)

表4 年齢別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

属性	性	n=332							
		24歳以下群		25~34歳群		35~44歳群		45歳以上群	
		PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自己没入		0.192	0.142	-0.148	-0.136	0.014	0.013	0.100	0.089
共感		-0.128	-0.072	-0.024	-0.019	0.086	0.070	0.120	0.089
抑うつ		-0.479*	-0.437*	-0.135	-0.124	-0.189	-0.197	-0.396***	-0.411***
対人不安		-0.580**	-0.568**	-0.422***	-0.481***	-0.431***	-0.495***	-0.401***	-0.403***

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient) SP：標準偏回帰係数 (Standard Partical regression coefficient)

表5 経験年数別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

属性	性	n=332									
		3年以下群		4~6年群		7~9年群		45歳以上群		45歳以上群	
		PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自己没入		0.317	0.116	-0.180	-0.153	-0.342	-0.320	0.043	0.042	0.068	0.060
共感		-0.094	-0.062	0.088	0.069	-0.021	-0.016	-0.046	-0.039	0.140	0.102
抑うつ		-0.363	-0.346	-0.007	-0.006	-0.380	-0.324	-0.208	-0.222	-0.356***	-0.365***
対人不安		-0.519**	-0.573**	-0.488*	-0.584*	-0.280	-0.263***	-0.393***	-0.469***	-0.424***	-0.433***

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP：標準偏回帰係数 (Standard Partical regression coefficient)

一性と抑うつとの間に負の有意な相関があり、対人不安との間にも負の有意な相関を示した。しかし自己没入、共感との間に有意な相関はみられなかった。次に自我同一性に最も影響する個人の内的属性を標準偏回帰係数でみると対人不安であり、続いて抑うつの順で影響していた。

#### 4. 性別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表3は性別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。抑うつと自我同一性との関係をみると、女性群において有意な負の相関がみられた。また対人不安との関係においても有意な負の相関があった。しかし自己没入、共感とは相関がみられなかった。次に自我同一性に最も影響している属性についてみると、女性群

では対人不安、抑うつの順で影響していた。

#### 5. 年齢別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表4は年齢別に自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。自我同一性と抑うつとの関係をみると24歳以下群と45歳以上群で負の相関が認められた。また対人不安と自我同一性との関係をみるとすべての群で有意な負の相関がみられた。次に自我同一性に最も影響している属性をみると24歳以下群は対人不安、抑うつの順であり、45歳以上群では抑うつ、対人不安の順で影響していた。

#### 6. 経験年数別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表5は看護職経験年数別に自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。自我同一性と抑うつ

表6 職階別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

n=332

属 性	看護師長群		副師長・主任群		看護師群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自己没入	-0.348	-0.182	0.086	0.079	-0.058	-0.051
共 感	0.359	0.139	0.132	0.100	-0.014	-0.011
抑 う つ	-0.887**	-1.174**	-0.307**	-0.309**	-0.185*	-0.180*
対 人 不 安	0.612	0.536	0.457***	-0.479***	-0.441***	-0.498***

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP：標準偏回帰係数 (Standard Partial regression coefficient)

表7 看護教育背景別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

n=332

属 性	大学群		短大群		専修学校群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自己没入	-0.715	-1.104	0.080	0.076	-0.024	-0.021
共 感	0.499	0.459	-0.100	-0.075	0.078	0.060
抑 う つ	-0.842	-0.645	-0.270	-0.303	-0.250***	-0.246***
対 人 不 安	0.399	0.485	-0.378*	-0.508*	-0.437***	-0.466***

\*p<0.05, \*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP：標準偏回帰係数 (Standard Partial regression coefficient)

表8 兄弟姉妹数別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

n=332

属 性	無 群		1 人 群		2 人 群		3 人以上群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自己没入	0.004	0.003	0.006	0.005	-0.025	-0.026	-0.050	-0.040
共 感	-0.216	-0.170	-0.096	-0.070	0.173	0.156	0.117	0.077
抑 う つ	-0.240	-0.267	-0.296**	-0.296**	-0.177	-0.189	-0.361***	-0.329***
対 人 不 安	-0.428	-0.488	-0.512***	-0.512***	-0.309**	-0.346**	-0.461***	-0.468***

\*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient) SP：標準偏回帰係数 (Standard Partial regression coefficient)

との関係を見ると経験年数20年以上群において負の相関があった。また対人不安との間には3年以下群, 4~6年群, 10~19年群, 20年以上群において負の相関を示した。しかし自己没入, 共感は自我同一性とは相関がみられなかった。経験年数20年以上群の自我同一性に最も影響している属性をみると, 対人不安, 抑うつ順で影響していた。

### 7. 職階別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表6は職階別に自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。抑うつと自我同一性との関係をみるとすべての群において有意な負の相関が認められた。また対人不安と自我同一性との関係をみると, 副師長・主任群, 看護師群において有意な負の相関がみられた。次に自我同一性に最も影響

している属性をみると副師長・主任群, 看護師群においては対人不安, 抑うつ順で影響していた。

### 8. 看護教育背景別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表7には看護教育背景別に自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。自我同一性と抑うつとの関係をみると専修学校群で有意な負の相関があった。また対人不安との間には短大群, 専修学校群で有意な負の相関を示した。次に自我同一性に最も影響している属性についてみると専修学校群では対人不安, 抑うつ順で影響していた。

### 9. 兄弟姉妹数別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表8には兄弟姉妹数別に自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。自我同一性と抑うつとの関

表9 友人数別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

n=332

属性	0 人群		1 人群		2～3 人群		4～5 人群		6 人以上群	
	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP	PC	SP
自己没入	0.711	0.426	0.031	0.026	-0.026	-0.022	-0.189	-0.154	0.265	0.348
共感	0.855	0.504	-0.083	-0.061	-0.052	-0.038	0.087	0.061	-0.060	-0.063
抑うつ	-0.726	-0.425	-0.416*	-0.460*	-0.255**	-0.236**	-0.461***	-0.449***	0.152	0.169
対人不安	-0.800*	-0.655*	-0.315	-0.324	-0.505***	-0.543***	-0.309**	-0.275**	-0.466**	-0.750**

\*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001

PC：偏相関係数 (Partial Correlation coefficient)

SP：標準偏回帰係数 (Standard Partial regression coefficient)

係をみると1人群と3人以上群で有意な負の相関があった。また対人不安との関係をみると1人群, 2人群, 3人以上群で有意な負の相関がみられた。次に自我同一性に最も影響している属性についてみると1人群, 3人以上群では対人不安, 抑うつの順で影響していた。

#### 10. 友人数別にみた自我同一性と個人の内的属性との関係

表9は友人数別に自我同一性と個人の内的属性との関係を示した。自我同一性と抑うつとの関係をみると1人群, 2～3人群, 4～5人群で有意な負の相関がみられた。また対人不安との関係をみると0人群, 2～3人群, 4～5人群, 6人以上群で有意な負の相関を示した。次に自我同一性に最も影響している属性についてみると2～3人群では対人不安, 抑うつの順であり, 4～5人群では抑うつ, 対人不安の順で影響していた。

### 考 察

#### 1. 自己没入と自我同一性との関係

自己没入と自我同一性とは関係があると推定したが, 本研究においては関係がみられなかった。CarverとScheierは自己を公的自己の側面と私的自己の側面とに分けている。「公的自己とは自己の容姿や振る舞いなど他者から観察される側面, 一方私的自己とは感情, 動機, 思考, 態度など他者が直接観察できない側面である」<sup>18)</sup>。自己没入の強い人のうち特にこの公的自己の強い人は他者をおる程度意識できるが, 私的自己の強い人は他者をあまり意識できないことが考えられる。このように自己没入の程度は公的自己と私的自己のどちらが強いかによって自我同一性の確立の程

度にも関わってくるのかもしれない。したがって, 自己没入全体で自我同一性との関係をみると相関がみられなかったものと考えられる。

#### 2. 共感と自我同一性との関係

当初, 共感と自我同一性は関係があると推定したが, 本研究では関係がみられなかった。ロジャース, トロワ, カーカフ, ガズダらはいずれも, 共感性は発達すべき人間の潜在能力であると考えている<sup>19)</sup>。また「共感能力は, 生来的にその人に備わったものだという人格特性とする考えと, スキルとしての共感能力がある。人格特性としての共感能力も変化するものであるので教育の対象となりうるし, スキルとしての共感能力は教育訓練によって身につくものである」<sup>20)</sup>。そして共感スキル訓練プログラムが実施されている<sup>20)</sup>こと等から, 共感性は訓練によって養うことが可能であることが理解でき, 共感の発達過程は自我同一性のそれらと違うのかもしれない。また, 長谷川は「人間は成長とともに変化のプロセスを歩むのだから, 共感能力についても, 決して固定的ではなく, さまざまな経験によって磨かれるはずである。」<sup>11)</sup>と述べている。このことから看護師は日々の患者との関わりの中で共感を必要とする経験をしていくことで共感性が育まれていき, それは自我同一性の確立の有無に関係せず養われていくために, 共感と自我同一性の関係がみられなかったものと考えられる。

#### 3. 抑うつと自我同一性との関係

仮説で推定したように, 抑うつと自我同一性とは負の相関を示した。性別で見ると, 男性群では相関がなかったが, 女性群において相関が見られた。抑うつは男性より女性で多く, 抑うつと自尊心感情は同様な発達変化をたどり, 女性の方が自尊

感情や自己概念が低くなることが報告されている<sup>21)</sup>。そして、自己像が低下し、自分を見失い、自分の存在の意義を見出せなくなる<sup>21)</sup>ことが、自我同一性の確立に影響を及ぼすと考えられる。

年齢別に見ると、24歳以下群で負の相関が見られた。就職後4ヶ月目の看護職の調査<sup>9)</sup>において看護職が自分に合っていると感じる者はわずかであり、大半が「患者の急変時に機敏に行動できない」「患者に迷惑をかける」「自分に合っていない」と答え、自信をなくしている。知識や技術の未熟さの自覚とともに「はたして(この先)やっていけるのか」「目前の仕事をこなすのに精一杯でまいち光がみえてこない」と時間的展望のせばかりをかんでいる。このように若い看護師は仕事に余裕がないことからくる心理的な負担が抑うつ状態となり看護師としての職業的同一性も確立されにくいことが考えられる。そして、「新しい職場へ就任後6ヶ月～3年の間には、個人は職務の特性および自己の能力を発揮できる機会の有無に敏感になり、関心は仕事における達成感への獲得へと移っていく」<sup>22)</sup>ことが報告されている。このように少しずつ職場に順応していき自分のできることをするなかで抑うつも薄れていき、仕事を達成していくことで同一性を確立させていくと考えられる。以上のことより24歳以下は職場に適応し、職業的同一性を獲得するための段階的なプロセスを踏んでいる過程にあることから、抑うつ、自我同一性ともに変化しており負の相関となったものとする。

45歳以上群において、負の相関がみられた。Levinsonは45～55歳の時期を、「これまでの生き方の再検討や新たな方向の模索を終え、いくつかの重要な選択を行ない、新しい生活構造を作り上げる時期である」<sup>23)</sup>と述べている。これからの方向性を見つけ出し進んでいる時期では自我同一性も確立できており抑うつ感も少ないため、負の相関になったものとする。

経験年数別に見ると、20年以上群において負の相関が認められた。自分のとった行動に対し、結果が得られなければ無力感が生まれ、抑うつの原因となることが述べられている<sup>8)</sup>。20年以上では今までの看護経験を統合して看護を行うことで、

患者から良い反応が返ってくることで職業的同一性を高めると共に抑うつ感を少なくさせることから、負の相関になったと考えられる。またハーシェンソンの職業的発達での人生段階では20年以上は専心従事期にあたり、職業において自分のしていることが自分にとってどんな意義をもつか考える時期でもある<sup>24)</sup>。考えることで看護経験を統合させていき職業的同一性の確立を促していくと考える。グレッグらは看護師が職業的アイデンティティを確立するために経験するプロセスでは「仕事の経験からの学び」「自己の看護実践の承認」等7段階を含み、後者については3つのサブカテゴリーとして自分のケアによる患者・家族の肯定的変化の認知、患者・家族からの肯定的フィードバック、自分のケアの限界の気づきが含まれると報告している<sup>5)</sup>。このような自己の看護実践の承認は、ある程度の経験年数を踏まなければ経験できないため、20年以上群でのみ相関がみられたものとする。

職階別にみるとどの群においても抑うつと自我同一性との相関が見られた。職階の違いにより異なることが示された。

看護教育背景別にみると、専修学校群にのみ負の相関が見られた。国眼は「専門学校生は大学生に比べ、モラトリアムの期間が短く、仕事自体のイメージが十分に描けずに、「モラトリアム」「拡散」の様相を示しているものも少なくない」<sup>6)</sup>と報告している。専門学校は大学より教育年数が短いことから物事をじっくりと考える時間が短いために、就職してから困難な場面に遭遇すると抑うつ状態になり、職業的同一性も確立しにくいことから負の相関になったものとする。

兄弟姉妹数別にみると、1人群、3人以上群において負の相関が見られた。自我同一性の確立には、自分は他者とは異なった独自の存在であるということを認めることが必要である。兄弟がいると自分と兄弟を比較をするため、自分と違うことを認識し、自分を意識するために自我同一性が発達しやすいと考えられる。また、自分と兄弟の違いを感じるという経験をしていると他の人と接する際に自分との違いに気づいても肯定的に受けとめられることから抑うつ感も少なく、自我同一性

と負の関係になったものと考える。

友人数1人群・2～3人群4～5人群において負の相関が見られた。自我同一性の発達には、他者の存在が必要である。友人がいるとその関わりの中で自分を意識し自我同一性を確立させていくことができ、一方では友人との関わりがあるため抑うつ感も少なく負の相関になったものと考える。

#### 4. 対人不安と自我同一性との関係

仮説で推定したように、対人不安と自我同一性は負の相関があった。

性別において、男性群では関係がみられなかったが、女性群でみられた。山岸は「女性は自我同一性の達成という青年期の発達課題を、男性のように抽象的な社会の中に自分を位置づけることより、むしろ親密な他者との関係の中に自分を位置づけ、共同的関係的な世界を作ることを通してなそうとする」<sup>15)</sup>と述べている。また、ジョセルソンは女子では同一性の強化と親密性の深化との相互性があることを見いだしている<sup>25)</sup>。このように女性は、対人関係を作る中で自我同一性を達成させていくことから、対人不安との間に負の相関が見られたものと考える。

年齢別ではすべての群において対人不安と自我同一性との間に負の相関がみられた。このことより、年齢の違いにより異なることが明らかとなった。

経験年数別においては7～9年群を除くすべての群において相関が認められた。7～9年群は配置換えを経験している人が多いことが考えられる。配置換えを経験した看護職者は新人と同じように再び職場に適応する過程を踏み、アイデンティティを獲得していく必要に迫られることが述べられている<sup>22)</sup>。そのようないくつかの職場を経験し、これから自分のしたいことを見つけ出していく中の7～9年群は、職業的同一性が揺れ動いている時期にあるため、対人不安との関係が見られなかったものと考える。また、7～9年群は他群の対象人数に比べ、少ないことも関係が見出せなかったことに影響していると考えられる。

職階別にみると、副師長・主任群、看護師群では対人不安と自我同一性との間に負の相関がみられた。SchlenkerとLearyは「対人不安が生じ

るためにはまず、自己についてのある印象を与えたい(呈示したい)と願っている(動機づけ)必要がある」<sup>26)</sup>と述べている。副師長、看護師群は職業的同一性を高めていく段階にあり、上司から良い評価を得たい、看護師としての自分を認めてもらいたいと、自我同一性を確立していくためにも承認欲求が強まるのが対人不安を高め負の相関となったと考える。

看護教育背景別において、短大群、専修学校群で負の相関を示した。短大や専修学校では大学よりも教育年数が1年短いため、葛藤したり、苦闘したりして自己探求する余裕がないことが自我同一性の確立に影響し、対人不安も高まるものと考えられる。

兄弟姉妹数別にみると、無し群以外のすべての群で負の相関が見られた。兄弟がいると兄弟との考え方の違いを経験し、自分自身を考える機会となるために、自己形成が促される。そして、兄弟との違いに気づく経験をしているために兄弟以外の対人関係においても対人不安があまり起こらないことから、負の相関になったものと考える。

友人数別においても1人群を除くすべての群で負の相関が認められた。友人との交友や集団活動が他者との連帯感の形成、社会的役割の学習・価値観の形成などを通して、安定した自尊感情や自分の存在価値の確認をもたらす、自己の確立の契機となることを説く者は多い<sup>27)</sup>。このことから、自我同一性は交友など他者と接することから形成されるため、自我同一性の確立できている人は対人不安も少ないため相関がみられたと考える。

## 結 論

看護職者332名に自我同一性と個人の内的属性である自己没入、共感、抑うつ、対人不安等との関係を調べた結果、次のことが明らかになった。

1. 抑うつと自我同一性とは負の相関がみられた。また、人口学的背景別においてこれらの関係が見られた群は、女性群、年齢24歳以下群・45歳以上群、経験年数20年以上群、職階別のすべての群、専修学校群、兄弟1人群・3人以上群、友人数1人群・2～3人群、4～5人群であっ



- た。
2. 対人不安と自我同一性とは負の相関がみられた。また、人口学的背景別においてこれらの関係が見られた群は、女性群、年齢別のすべての群、経験年数7～9年以外のすべての群、副師長・主任群、看護師群、兄弟1人以上のすべての群、友人数の1人群以外のすべての群であった。
  3. 自我同一性に最も影響する個人の内的属性は対人不安であり、次に抑うつであった。
  4. 自己没入と共感は自我同一性とは相関がみられなかった。

### 研究成果の活用と限界

本研究結果は看護職者の自我同一性の発達を促すための基礎資料として、また自我同一性に関わる個人の内的属性を教育・訓練していくための資料として活用できるものと考えられる。しかし、本研究は男性数が少数であったこと、2つの病院における調査であったことから、対象数を増やしてさらに検討していく必要がある。

### 謝 辞

本研究の調査に御協力下さいました福井県立病院の柿澤イサ子看護部長及び富山市民病院の加藤美智子看護部長をはじめ、看護師の皆様へ深謝致します。

### 引用文献

- 1) 中西信男, 水野正憲, 古市裕一ほか: アイデンティティの心理. pp 2-3, 有斐閣, 東京, 1985.
- 2) Mark, Leary: understanding Social Anxiety. 1983. (生和秀敏 訳, 対人不安. pp142, 北大路書房, 京都, 1990.)
- 3) 相場寿一: 社会心理学を学ぶ人のために (第8版). pp 36-37, 世界思想社, 京都, 1997.
- 4) 藤村邦博, 大久保純一郎, 箱井英寿: 青年期以降の発達心理学. pp47, 北大路書房, 京都, 2000.
- 5) グレック美鈴: 看護師の職業的アイデンティティに関する中範囲理論の構築. 看護研究35(3): 2-10, 2002.
- 6) 岡本祐子: 女性の生涯発達とアイデンティティ. pp124-132, 北大路書房, 京都, 1999.
- 7) 高田志保, 平賀幸子, 岩崎加代子ほか: 看護婦の学習への動機づけに関する調査 自我同一性との関連性を探る. 日本看護学会26回集録看護教育: 124-126, 1995.
- 8) 丹野義彦, 坂本真士: 自分のところから読む臨床心理学入門. pp 18-34, 東京大学出版会, 東京, 2001.
- 9) 無藤隆, 高橋恵子, 田島信元 編: 発達心理学入門II. pp 25, 東京大学出版会, 東京, 1990.
- 10) Mark H. Davis著 菊地章夫 訳: 共感の社会心理学. pp 213-214, 川島書店, 東京, 1999.
- 11) 長谷川浩, 石垣靖子, 川野雅資: 共感的看護. pp 26-52, 医学書院, 東京, 2000.
- 12) 前掲書2), pp 4.
- 13) O'Banion, K., & Arkowitz, H: Social anxiety and selective memory for affective information about the self. Social Behavior and personality 5, 321-328, 1977.
- 14) 谷冬彦: 多次元自我同一性尺度. 心理測定尺度集I, 山本真理子編, pp86-90, サイエンス社, 東京, 2001.
- 15) 前掲書10), pp 28-67.
- 16) 福田一彦, 小林重彦: 自己評価式抑うつ尺度の研究, 精神神経学雑誌75: 673-679, 1973.
- 17) 林洋一, 小川捷之: 対人不安尺度構成の試み～その2～, 横浜国立大学保健管理センター年報2: 19-37, 1982.
- 18) 前掲書8), pp169.
- 19) 川野雅資, 長田久雄: 共感的理解と看護. pp 82, 医学書院, 東京, 1991.
- 20) 前掲書11), pp 102-127.
- 21) 無藤清子: 心理臨床的問題に見られるジェンダーの影響. ジェンダーの発達心理学, 伊藤裕子編, pp 229, ミネルヴァ書房, 京都, 2000.
- 22) 三隅二不二: 組織の行動科学 (応用心理学講座). pp 148-149, 福村出版, 1996.

自我同一性と個人の内的属性との関係

- 23) 斎藤耕二, 菊地章夫: 社会化の心理学／ハンドブック. pp 235, 川島書店, 東京, 1990.
- 24) 広井甫, 中西信男: 学校進路指導. pp 78, 誠信書房, 東京, 1978.
- 25) 高橋裕行: 女性のアイデンティティ・男性のアイデンティティ. ジェンダーの発達心理学, 伊藤裕子編, pp 90, ミネルヴァ書房, 京都, 2000.
- 26) 前掲書 8), pp 67.
- 27) 高田利武, 丹野義彦, 渡辺孝憲: 自己形成の心理学. pp 32, 川島書店, 東京, 1987.

## Relationships between nurses' ego identity and their internal attributions

Keiko YOKODA<sup>1)</sup>, Rui shuang LIU<sup>2)</sup>  
Chikako HAYASHI<sup>3)</sup>, Shizuko TAKAMA<sup>1)</sup>

- 1) School of Nursing, Faculty of Medicine, Toyama Medical and  
Pharmaceutical University
- 2) Beijing Hospital of Ministry Public Health of China
- 3) National College of Nursing

### Abstract

The purpose of this study was to examine relationships between nurses' ego identity and their internal attributions. A sample consisted of 332 nurses was examined. The instruments used were Multidimensional ego identity scale, Self-preoccupation scale, Empathy consideration scale, Depression scale and Negative self-awareness in interpersonal relationships scale. The scores of depression showed negatively correlation with those of ego identity. The scores of negative self-awareness in interpersonal relationships showed partial correlation coefficient with significant to those of ego identity. The scores of self-preoccupation and empathy consideration didn't show correlation with those of ego identity.

### Key words

ego identity, self-preoccupation, empathy, depression,  
negative self-awareness in interpersonal relationships